



Piccolo
Sato Yukari : 佐藤由加里

Flute
Sato Tsukasa : 佐藤 司
Uotani Yoko : 魚谷 陽子
Nobesawa Yoko : 延澤 優子

Oboe
Sakamoto Makiko : 坂本真貴子

Clarinet
Hatazawa Atsuko : 畑澤 淳子
Onishi Harumi : 大西 晴己
Matsumoto Yuki : 松本 ゆき
Nagao Kyoko : 長尾 恭子
Ishida Keiko : 石田 契子

Alto Clarinet
Tokoho Eiji : 徳保 栄次

Bass Clarinet
Sato Hiroshi : 佐藤 浩史

Bassoon
Takahashi Shihō : 高橋 志穂

Alto Saxophone
Ogawa Yoko : 小川 陽子
Itou Kohei : 伊藤 耕平

Tenor Saxophone
Hatsuoka Kazuki : 初岡 和樹

Baritone Saxophone
Okada Mayumi : 岡田真由美

Horn
佐々木まゆ : Sasaki Mayu
小川 貴子 : Ogawa Takako
日置 澄人 : Hioki Sumihito
佐伯 直人 : Saeki Naoto

Trumpet
魚谷 昌克 : Uotani Masakatsu
大西 伸幸 : Onishi Nobuyuki
国元 昌広 : Kunimoto Masahiro
表 恭子 : Omote Kyoko
乙川 佳世 : Otsukawa Kayo

Trombone
田中 真二 : Tanaka Shinji
田口 秀雄 : Taguchi Hideo
小島 正浩 : Kojima Masahiro
田中 良美 : Tanaka Yoshimi

Euphonium
大西 善郎 : Onishi Yosio
中村 雅美 : Nakamura Masami

Tuba
吉村 大介 : Yoshimura Daisuke
橋本 一夫 : Hashimoto Kazuo

Percussion
板垣 麻子 : Itagaki Asako
河津 雅之 : Kawatsu Masayuki
久保 寛美 : Kubo Hiromi
平井 晶 : Hirai Aki
下村 智子 : Shimomura Tomoko
中村 千春 : Nakamura Chiharu
小椋由希子 : Ogura Yukiko
前河内芳昭 : Maekawauchi Yoshiaki

Piano
松本 清香 : Matsumoto Kiyoka



A-Winds SINCE 1999
NARA AMATEUR WIND ORCHESTRA
デビュー演奏会





ロバート・ジェイガー
ジュビラーテ
 指揮：佐藤司

アルフレッド・リード
組曲第3番「バレエの情景」
 1. ファンファーレと序章
 2. パ・ド・ドウ
 3. 風変わりのポルカ
 4. 全員の踊り
 指揮：魚谷昌克

<休憩>

グスタフ・ホルスト
吹奏楽の為の第1組曲 変ホ長調
 1. シャコンヌ
 2. インテルメッツォ
 3. マーチ

ロバート・W・スミス
月への12秒
 客演指揮：中西 勲

Robert Jager
Jubilate
 Conductor: Sato Tsukasa

Alfred Reed
Third Suite for Band (Scènes de Ballet)
 1. Fanfare and Intrada
 2. Pas de Deux
 3. Polka Excentrique
 4. Danse Générale
 Conductor: Uotani Masakatsu

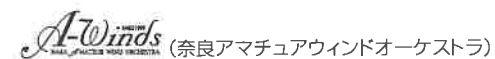
<intermission>

Gustav Holst
First Suite In E^b for Military Band
 1. Chaconne
 2. Intermezzo
 3. March

Robert W. Smith
Twelve Seconds to the Moon
 Guest Conductor: Nakanishi Isao



客演指揮者：中西 勲 (Nakanishi Isao)
 大阪音楽大学卒業。ユーフォニアムを吉岡康博、末吉秀夫、三浦徹、石崎一夫各氏に師事。大阪音楽大学吹奏楽団、吹田吹奏楽団、三田市吹奏楽団等と共演。現在、大阪音楽大学非常勤講師。大阪小バス倶楽部、ジャパン・プラスコレクションメンバー。神戸大学吹奏楽部バンドトレーナー、加茂ウインドオーケストラ音楽監督、邦楽集団「個々の会」常任指揮者。



本日は、私たち A-Winds 奈良アマチュアウインドオーケストラのデビュー演奏会にお越しいただきありがとうございます。メンバー一同、心より御礼申し上げます。

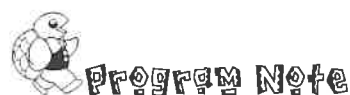
A-Winds は、1999年10月に活動を開始したばかりのアマチュア吹奏楽団です。某校吹奏楽部OB会、といった特定の母体があるわけではなく、奈良県内で活動を行っているいくつかの小編成アンサンブル（プラス、フルート、サクソフーン……）のメンバーが集まって団の核を構成するという感じでスタートしました。

A-Winds は2つの大きな特色もっています。一つは、原則1パート1人で演奏するという、いわゆる「ウインドアンサンブル」を指向していること、もうひとつは、吹奏楽のために作曲された「オリジナル曲」を重点的に取り上げる、というものです。どちらも吹奏楽団としてはとても真当で特に目新しいものとは感じられないかもしれませんが、なぜか、こういふことを正面きって打ち出す吹奏楽団は、少なくとも奈良県にはないようです。全国的にみても、私たちの知る限り同様の活動を行っている吹奏楽団は1、2あるかないかというところなのです。

「ウインドアンサンブル」という考え方は1950年代にアメリカ人指揮者フレデリック・フェネルによって提唱されました。フェネルのいう本来の「ウインドアンサンブル」は、個々の奏者にプロフェッショナルな演奏能力を要求するわけですが、そこは私たちは「アマチュア」なので、個々のメンバーが最大限のやりがいを得るための「ウインドアンサンブル」であると考えています。つまり「このパートは自分だけのもの」「上手くいっても失敗しても、全部、自分の責任」という責任感、緊張感、それらを乗り越えた上での達成感、満足感を得られるウインドアンサンブルという演奏形態こそ、大人が趣味でやる吹奏楽として最もふさわしい、と考えているのです。

もうひとつの「オリジナル曲重視」ですが、昨今の吹奏楽の演奏会ではオーケストラ曲やジャズ、ポップスの編曲物がプログラムの大半を占め、オリジナル曲の扱いは総体に軽くなっていると思います。アレンジ物をやること自体、別に悪いことではありませんが、ある曲をオケやビッグバンドなどの本来の演奏形態でなく吹奏楽で演奏することの意義について、きちんと吟味された上での選曲であるのか疑問に思うことが少なくありません。少なくとも、吹奏楽の特性・機能を十二分に活用し最も演奏効果があがるように作られている「オリジナル曲」を差し置いてまで、アレンジ物をレパートリーに取り上げる意義は薄いと考えます。私たちは、軽んじられがちな吹奏楽オリジナル曲を積極的に取り上げることで現在の吹奏楽の風潮に一石を投じたいと考えているのです。ただ逆に、吹奏楽でやる意義さえ明確にできるなら、アレンジ物を取り上げるに全く吝かでないことも付言しておきます。「オリジナル『しか』やらない団体」というのは誤解であり、A-Winds の奏でるアレンジ物もそのうちご披露できれば、と考えております。

さて、このような様々な思いを抱きながら、本日、A-Winds は皆様の前にデビューを果たします。メインに取り上げる『月への12秒』はライト兄弟による人類初の動力持続飛行にちなんだ曲ですが、奇しくも本日は、そのライト兄弟による人類初飛行からちょうど96年目にあたります。このような日にわたくしたち A-Winds が初めの一步を踏み出すことになるこの因縁の妙!!。この第一歩が「偉大な一歩」となるようこれからも日々精進して参りますので、末永くご声援賜りますようよろしくお願い申し上げます。



ジュビラーテ/ロバート・ジェイガー

第26回全日本吹奏楽コンクールの課題曲として、1977年に作曲されました。構成は急—緩—急の明快な3部形式です。ロマンティックな音楽が印象的で、ジェイガーの音楽的センスの一端を濃縮している作品だといえます。

組曲第3番「バレエの情景」/アルフレッド・リード

ミネソタ州ブルーミントンにあるトーマス・ジェファーソン高校バンドの委嘱により、1981年に作曲されました。曲はサブタイトルにもあるようにバレエの情景を描いた音楽で、華やかなファンファーレが印象的な『ファンファーレと序章』、主役の男女2人の優美な踊りの『パ・ド・ドウ』、変拍子が効果的で軽快な『風変わりのポルカ』、そして終曲にふさわしく劇的なムードの『全員の踊り』の4つの楽章からできています。

吹奏楽のための第1組曲変ホ長調/グスタフ・ホルスト

1909年に当時のイギリスの代表的なミリタリーバンドのために作曲されました。全曲は『シャコンヌ』『インテルメッツォ』『マーチ』の3つの楽章でできていますが、主要主題のほとんどは第1楽章冒頭の主題から導き出されており、それによって組曲全体の統一が図られています。

吹奏楽のためのオリジナルな作品としては草分け的な存在の作品といえます。

月への12秒/ロバート・W・スミス

1969年7月20日、アポロ計画によりアポロ11号の有人宇宙船「イーグル」は月面着陸に成功しました。『これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては偉大な一歩である』というニール・アームストロング船長の第一声は、とても印象的な言葉です。

それより66年の年月を遡り1903年12月17日、ノースカロライナ州キティホーク付近の海岸で、ウィルバー・ライトとオービル・ライトの兄弟は人類初の有人飛行を成功させました。「フライヤー1号」と名付けられた動力飛行機の滞空時間はわずかに12秒ですが、長い長い間人類が夢見た飛行が実現した瞬間であり、そして人類の月へ向けての挑戦が始まった最初の12秒でした。

『月への12秒』。この曲はそのような人類の空と宇宙への挑戦を祝福する曲です。音楽は、ライト兄弟が鋼鉄を打っている作業場からケーブ・ケネティ（現在ケープ・カナヴェラル）のロケット発射台までの様子をドラマティックに描写しています。

委嘱はオハイオ州デイトンのライト・パターソン空軍基地を本拠とする空軍バンドで、1996年2月にオハイオ音楽教育者会議において同バンドによって初演されました。

